

平成28年度 第2回 上野原市総合教育会議

議事録

1. 日時及び場所 : 平成29年1月24日(火) 午前9時から
上野原市役所 2階 庁議室

2. 出席者 : 委 員
江口市長、和田教育長、
坂本教育委員、白倉教育委員、山下教育委員、佐藤教育委員
【事務局】
企画課(小澤、守屋、石井)
教育委員会(尾形、上原、清水)

3. 次第 : 1 開 会

2 市長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 議 事
(1) 上野原市教育振興基本計画(案)について

5 その他

6 閉 会

1 開会

2 市長あいさつ

(江口市長)

おはようございます。毎日厳しい寒さが続いておりますが、教育委員の皆様には、お忙しい中お集まり頂きありがとうございます。

さて、かねてより要望が出されておりました、小中学校へのエアコンの設置について、今年度、上野原小学校と上野原西小学校に導入する運びとなりました。

また、島田小学校と上野原西中学校については、トイレの洋式化を実施することとなり、教育環境の整備に向けた取り組みが一步一步前進しているところです。

昨年暮れには、学力フォローアップ教室を拝見させて頂きましたが、冬休みのさなか勉強に励んでいる子どもたちに接し、上野原の未来をたくす子供たちのためにも教育環境の充実の必要性をさらに感じたところであります。

昨年度、皆様とともに策定しました教育大綱は、「健やかに学び、輝く未来を拓く、心ふれあう上野原の人づくり」を基本理念と定めましたが、その実現に向けて、教育振興計画を策定しておりますので、教育委員の皆様のご協力をお願いし、挨拶とさせていただきます。本日は、よろしく申し上げます。

3 教育長あいさつ

(和田教育長)

皆様おはようございます。江口市長におかれましては年始めのお忙しい中、開催いただき誠にありがとうございます。さて教育環境においては、昨年度、文部科学省中央審議会におきまして、幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び総合支援学校の学校指導要領等の改善及び必要な方策についての答申がなされたところです。本答申では外国語の強化、プログラミングの必修化等々のほか、社会に開かれた教育課程の実現をめざし、変化多様な現代社会において子どもたちが正解のない複雑な問題に立ち向かい、よりよい解決策を導けるような力をはぐくむため、主体的で対話的な深い学び、いわゆるアクティブラーニングの視点が必要とされたところでもあります。また教育課程の指針にあたりましては、地域の人的、物的資源の活用や、社会教育の連携など、社会と共有連携し家庭や地域の人々とともに子どもを育てていくという視点が重要視されております。さらに社会教育におきましては、先般、日本老年学会が現在 65 歳以上とされている高齢者を 75 歳以上に見直し、65 歳から 74 歳は準高齢者として社会を支えると捉えなおすような提言がなされたことと報道がされたこともあり、生涯学習の実現や、家庭地域プログラムの構築に向けた必要性はますます重要となっているところであります。

こういった中で教育委員会では昨年、教育大綱に基づきまして第1回総合教育会議を踏まえた中で、上野原市の教育振興計画の策定を進めているところであります。この度、本計画書がまとまりましたので、この概要をご説明申し上げ、市長共々ご協議をいただきますようお願いいたします。

結びに江口市長におかれましては時節柄非常にお忙しい中、くれぐれもご自愛くださいまして市教育大綱、教育振興計画の基本理念であります「健やかに学び 輝く未来を拓く 心ふれあう上野原の人づくり」の実現に向け、教育委員会とともに施策の推進を進めていきますよう、努めてお願い申し上げます。本日はよろしくようお願い申し上げます。

4 議事

(事務局)

要綱の規定により、進行を江口市長にお願いする。

(議長)

では早速議事の方につらさせていただきます。(1) 上野原市教育振興基本計画(案)について、すでに教育委員の皆様へは資料が渡してありますのが、事務局から説明をお願いいたします。

【学校教育課 清水リーダーより基本計画について説明】

(議長)

ただいま事務局より説明のありました上野原市教育振興基本計画(案)について、教育委員の皆様より意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

(議長)

まず私から口火を切らせてもらいますが、保育園・幼稚園・こども園から小中学校まで一貫して教育を行うことがこれからのグローバル化に対応するためには大切だと思います。特に上野原市は東京に近くそういったことを取り入れていくことが非常に重要だと思います。具体的にどういう風に運用していくのか、こういう風なことをやっていきたいということがあれば教えていただきたい。上野原市は山林が80パーセントですから学校林もあるし、地元を愛する気持ちを育てたり、林業だけでなく、農業も学ぶことがあると思うのでそういったことを取り入れていってほしいと思います。

(事務局)

幼保小中の連携については、英語連携研究会を行っており、小中の英語に関わっている方々が一堂に会し、研究をしているところであります。また小学校3・4年生にも英語の授業が降りてきますので、出前講座という形で中学校の先生が授業をし

たり、英語以外の体育や算数などについても出前講座を行い、連携を図っています。中学校単位で上野原中の先生が上野原小・西原小を訪問したり、上野原西中の先生が島田小・上野原西小に訪問しています。秋山中についても秋山小と連携をとっています。幼保についても、小学校の見学をするなど連携を行っています。農業については、これからコミュニティスクールを行い、地域の方々が学校応援団という形で入ってくるので、稲作や畑の収穫体験を行い、郷土愛をはぐくむことを行いたいです。地域の方々の協力を得ながら、環境整備を行っていきたいと思います。

(議長)

東京の方では幼稚園から、英語教育を行っているので、スピード感を持って進めたい。また農業と林業に限らず、商工業も含めて、市内には工業団地が2つあるのでそういったところの見学なども検討課題の中に入れていただきたいです。そうすると学校の先生にかかる負担も増えていくわけで、国の方では教員を減らそうとしているが、今でも労働時間が多いので教員の負担をどのように減らしていくか、環境整備が必要になっていくと思います。事務作業は非常勤職員を雇ったりして、教員は純粋に教育に専念できるように考えていっていただきたいと思います。

(教育長)

外国語教育の推進については、計画の13ページに詳細が記載され、ここでも実用英語技能検定検定料の助成とありますが、県の方でも中学校3年生の英語検定に助成を行うことを検討しているようです。教職員の多忙化の解消ですが、現場の声を聴き検証しながら、よりよい指導環境を整備していきたいと思います。

(議長)

県は県全体のことを考えているので、県の取り組みは県の取り組みで、市内の方々は都内の方を向いていますし、上野原市では県よりも一歩先へ進んだ考え方で取り組みを行っていただきたいと思います。

(教育委員)

東京都の私立のいくつかの学校では授業をすべて英語で行うことを計画しているというところもあるようです。上野原市も市の特色を表すということも活性化や、生きる力をはぐくむということにつながると思っております。ぜひ実現できれば実現してほしいと思います。

(議長)

今、上野原市ではタブレットを使用しており、市内の小中学校に、7・8人に一台あるんですね。

英語の取り組みについては、小学校の教諭の免許を持っているけれど、中学校の教員免許は持っていない先生、逆に中学校の先生の免許は持っているけれど、小学校の教員免許は持っていない先生がいますし、小学校の英語を教えられる先生もい

れば、教えられない先生もいるので、そのあたりのバランスも調整する必要があります。

(事務局)

現在、小学校の先生は英語ができない先生が多く、AETに授業を任せてしまうという形になってしまうのでそこが課題で、英語の授業が入ってくるときまでに解消しないといけないと感じています。英語の研修をしたり、そういったことも教育委員会の仕事なのかなと考えています。

(議長)

上野原市としてこの計画をつくった訳ですから、目玉となる、特徴を出してPRできるようなものを出して行ってほしいと思います。

(教育委員)

中学校の先生は英語力のある方もいらっしゃるが、小学校の先生は英語の会話力を持っている先生は少ないかと思います。目標を定めて教員の研修をきめ細かくやっていただくことが必要だと思います。もう一点、0歳児からの感性、生きる力、人間性をつくるような支援を協力していただくことが必要だと考えております。

(議長)

そのあたりは福祉課と相談し、連携をとって行ってほしいと思います。

(事務局)

今、文化ホール3階で子育て支援室がありますが、総合福祉センターができあがったら、そちらでも健診等、福祉課、保健師などと連携し小さいうちから子どもを見守っていく機会を提供できるように対応を図っていきたいと考えております。

(議長)

貧困の問題ですが、6人に1人が貧困家庭の子どもで、満足する教育が受けられないと報道等でもいわれています。これを上野原市はどう考えていくか、打ち出していくことが必要です。市としてどのように支援していくか、考えて行ってほしいと思います。これは計画に詳細をいれるということではなく、今後考えて行ってほしいという提案です。

(事務局)

貧困対策は、経済的なものや、福祉的なものなど多岐にわたる。県の方で社会教育課の方で貧困対策の計画があるのですが、各部門で協力し合い対策を練っていきたいと思います。

(教育委員)

一つ問題なのは、内容が豊富なので大事な点から進めていただいて、山梨県というのはどうも国中の方から郡内の方へ広まっていくということがあるので、先だ行っていただきたいと思います。

また特に気になるのは、子どもたちの可能性を大人たちが抑えているのではない

かということで、可能性を開かせるように、専門的知識だけでなく、若者の意見を参考にしてあげたいと思います。地域の方、社会教育の方、団体の方、企業の方など市全体で団結して行わないとならないと思います。

(教育委員)

東京に引っ越した方から、勉強に対する考え方がこちらとは全然違うという話を聞き、上野原ではのんびりした教育でそれはそれでいいところなのだけれど、英語教育には力を入れていってほしいと思います。福祉のほうでは、障害を持ったお子さんなども上野原市では普通教育で勉強している子の数が多いと思うので、子どもたちも自然とそれを受け入れていると思います。ですので英語も小さい頃から接していれば、自然と身についてくるものではないかと思います。子どもの貧困については、子どもを持つ母として感じている部分もあり、遅刻したり、ご飯がカップラーメンだったりという話もあります。またこの計画をみて、先生の負担が増えてしまうのではないかという心配もあります。できるだけ先生の負担にならないように、難しいことはわかっているのですが、人件費を増やすなど考えていってもらえたらと思います。

(教育委員)

英語の専門の先生を確保してだけでなく、いろいろな国の方々と交流する機会を持つことができると思います。またこれからAIという人工知能のロボットが増えてくるということですが、自分の考えることを発信していける、AIに負けない人間を育てていかなければならないと思います。読書することは考える力、頭脳を高めることができると研究者の方もいっていましたので、読書の必要性も取り入れていただけたらと思います。

(議長)

ほかにご意見ある方はいらっしゃいますか。

(教育委員)

昨年、キャリア教育で子どもたちが私の会社に来たのですが、子どもたちが自分の意見もはっきり言うことができたので、先生の教育の賜だと思いました。また市内にある企業へ地元から採用につながるように、工業団地など大きな企業の職業体験も検討していくこともいいのではないかと思います。

島田でママカフェをやっているのですが、大月や富士吉田でやっている子ども食堂、子どもたちが自由に来て食事ができる、そういった方向性のものもできるのではないかと思います。

(議長)

いろいろな意見がでましたが、多様化している社会情勢に対応し、これからの世代を担っていく子どもたちを育てていく、守っていくために協力していきたいと思

います。他にご意見ある方いらっしゃいますか。

ないようですので、素晴らしい計画ができましたから、これを実現化していくようお願いしたいと思います。

それでは、議事が終了しましたので、以上を持って議長の任をとかせていただきます。

5 その他

特になし。

6 閉会

以 上